

■演劇コンクール・稽古場アンケート！ 【オパンポン創造社】

第11回せんがわ劇場演劇コンクール出場団体の稽古場情報を配信！
全5団体、順不同でお届けします。

今回は、【主宰】の【野村有志】さんにお話を伺いました。



●「劇団の成り立ち」を教えてください。

【野村】2004年8月、野村有志による1人演劇ユニット・オパンポン創造社を旗揚げしました。

全作品の脚本・演出を野村が務め、ペースと笑いを融合させ泥臭い人間模様を描くのが得意としています。役者としても全作品出演し、外部出演など多数、去年はドラマ脚本や、朝ドラ出演等活動の場を広げています。

●活動について聞かせてください。

【野村】このコロナ禍においても、演劇ユニット「のと☆えれき」に役者として参加し、札幌・大阪公演(2020)。今年2月には自劇団にて神戸・東京2都市公演を行うなど、これまでと変わらぬ活動をする事で、1人ユニット(個)の可能性を行動で示してきたつもりです。それは同時に複数であれば可能性がより広がることの提示であるとも思っています。

●コンクール参加の動機は？

【野村】これまでも本拠地大阪のみでなく、札幌/教文短編フェスティバル(2012)や東京/ルナティック演劇祭(2012/2017)など他地域で行われる演劇祭に参加してまいりました。

オパンポン創造社は1人演劇ユニットであり本公演を行う事が容易ではありません。CoRich 舞台芸術まつり！2018 春のグランプリ受賞した事で行えた東阪2都市ツアーや、今年のカVC FLAG COMPANYに選出されたのと同様に、せんがわ劇場演劇コンクールに新たな活動の場の可能性を感じ応募させていただきました。

●今回は、どんな作品でしょうか？



【野村】初演は2019年。2年前に創った作品ですが、今上演することで深みが増したのではないかと手前味噌ですが。

「僕らは笑う、壁を挟んで見つめる貴方にとっては不毛な与太話で。これはそんな貴方や、僕らの日常。」

観る方によって受け取り方が変わり、客席からの反応がバラバラであればあるほど、完成度が上がる作品です。そう言う意味では、観客がいて初めて成立する作品でもあります。

●今後の展望は？

【野村】これまでと違い、安易にこの先のことを語れないですし、語ったところで希望という名の嘘が混じる。唯一語れる事は、これからも僕は演劇を続けます。

【担当コメント】

CoRich 舞台芸術祭りのグランプリ受賞を始め、様々な受賞歴を持つ大阪の団体がせんがわにやって来ます。多くの笑いと不意に刺さる皮肉が観客にどう伝染していくのか。今からとても楽しみです。

【オパンボン創造社：5月30日（日）】 担当：栗原秀一